

# なかま

長袖の 肌になじまぬ 十六夜の  
静けさや 機械の鳴かぬ 秋の昼

## 行事予定表

9月14日	前田文夫先生講演会 13:10~
	<b>運動会予行</b>
9月21日	運動会予行 通知表渡し
9月28日	運動会(雨天10月5日)前期最終日
10月5日	後期開始日(運動会予備日)
10月12日	授業参観・懇談 小5小6 小3小4
10月19日	授業参観・懇談 小1小2 中、P小中高

## 読書感想文(絵)コンクールの参加へのお礼

今年は伊藤忠財団から100冊を越える図書を寄贈頂き、読書感想文コンクールを実施しました。69名の皆さんに応募いただきありがとうございます。参加いただいた皆さんには学校から参加賞が贈られます。これからもしっかりと読書し、心の部屋をさらに広げてください。

## 曲を募集

音響係では、**運動会で流す音楽**を募集しています。USBに名前、学年、Email Addressを書いて9月21日までに郵送してください(Stickはお返しします)!!

**古本回収** 9月21日 11時半~15時 校舎1階  
ご協力を宜しくお願いします。

## ほめて育てる

自分の育ってきた日々を思い出すに、ほめられて自信をつけた事だけが今の自分を支えていることに思い至ります。



早朝の1号線

わが子をほめることはなかなか難しいですが、わが子の長所を発見することは、親や大人に課せられた責務でもあると思います。そのためには、冷静に客観的にわが子の長所を見極める努力が必要でしょう。そしてそれを発見したら、躊躇せずほめることにしましょう。

ほめるにはそれなりの準備とゆるぎない確信が必要なことは言うまでもありません。ほめるには、わが子のことをよく観察してその適性をよく理解し、本人が日々の生活の中で納得できる内容である必要があります。そこで初めてほめたことが効果を発揮するわけですから、ほめるのも真剣勝負でなければならないと思うのです。

## プリンス日本語学校新聞



平成26年度 No.17号

平成26年 9月14日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

日本史シリーズ(6) 時代を変えた平清盛

歴史の時代区分では、奈良時代、平安時代、鎌倉時代などという統治者のいた場所などによるもの他に、古代、近代、現代など統治のしくみの違いによって分ける方法もあります。年表をよく見るとその境目が垂直ではなくななめに区切られているのが多いことが分かります。とりわけ古代と中世の境目はずいぶん緩やかななめになっていて、統治のしくみがゆっくり変化していったことが想像できます。王侯貴族が人々を支配していた制度が少しずつ崩れていき、武士階層が支配する時代に代わるのに約200年かかっているのです。その間には武士が台頭し荘園を徐々に蚕食しはじめますが、貴族や寺社の荘園も長く生きながらえました(荘園が姿を消すのは太閤検地による)。鎌倉幕府(1192~1333)が武士の政府を樹立しましたが、全国津々浦々まで支配下に置いて租税を徴収できたわけではありませんでした。これらの緩やかな変化の時代にどんなことが起きていたのか興味をそそられます。

時代はときに革命で政体が急変することはあっても、人々の生活が変化するには長い時間が必要なのがわかります。それでも時代は特別な力を持った人物を生み出して、変化させていきます。その役割を担った一人が平清盛だったといえると思います。

清盛の出自がはっきりしているのは若い時期から宮廷に深くかかわっていた(父忠盛が北面の武士だった)からなのですが、長い間政権を左右できる場所において、様々な勢力の関係を調整し自らの力を行使できる立場になっていったと考えられます。

そして、すでに貴族には武士の棟梁たちを抑え込む力は弱くなっていて、その財源を確保するのも難しくなっていました。世の中の治安を守るために必要とされた各地の武士の台頭によって、貴族や寺社等の勢力は少しずつ衰えていきます。清盛の財政を支えた日宋貿易を阻止することができなかった貴族には、もう時代を担う力はなくなっていたといえるでしょう。清盛こそが、時代の変化を最も敏感に感じ取っていた人物だったのです。律令制がくずれ荘園が広がり、その荘園から成長した武士勢力が時代を動かすようになり、源頼朝が開いた鎌倉幕府が清盛の敷いた道をたどり、武家政治をさらに進めました。

新しい勢力の台頭は、人々の共感と支持を集め受け入れられたときに、時代の流れを大きく変えることになるのは、現代でも同じ道理だと思います。